

【評価実施概要】

事業所番号	3771700907
法人名	株式会社旭看護婦家政婦紹介所
事業所名	旭グループホーム
所在地	香川県三豊市高瀬町上高瀬5388番地262
評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成19年5月25日

【情報提供票より】（平成19年4月1日事業所記入）

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年10月16日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9人
職員数	17人 常勤 11人、非常勤 6人、常勤換算 10人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	平屋 階建ての ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300円	昼食	350円
	夕食	350円	おやつ	円
	または1日当たり1,000円			

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	8名	男性	2名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	3名		要介護4		
要介護5	1名		要支援2		
年齢	平均 87.5歳	最低	83歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三豊市西香川病院 氏家歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山間の小高い所に畑と建物があり、小人数のゆったりとした雰囲気の中で生活されている。玄関に入ると、生活臭はなく、清潔に清掃が行き届いている。職員の質の良さと利用者との関係が、とても良い感じに見受けられ、また、職員と家族間も安心を提供し、よい関係がつけられている。個人の能力に合った支援をし、無理なく自然に対応している。特に、各部屋にはトイレを常設し、自立のための環境を整備する等、利用者本位に考慮されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>食事時のテレビ音が高く、食事環境の改善が求められていた。また、管理者の勤務時間数が多く、負担があり、改善の工夫が検討課題であったので、課題を一つから改善できるように取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>食事中は童謡のCDが優しくかかり、みんなで会話をする等、食事環境の改善に取り組んでいる。また、管理者は常に多忙であり、全てに目を配り、責任を果たすための負担は多いので、今後も工夫が求められる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>今年に入り、地域での運営推進会議を開催するようになり、町の職員、ボランティア、民生委員等と交流ができ、相談できる環境が整ってきている。今後、グループホームに何が出来るかを検討し、取り組んで欲しい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>本人、家族とコミュニケーションを取り、小さな不安や苦情に対して謙虚に対応し、反省点を改善に活かし、次回につなげるよう取り組みが望まれる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会との行事等は、積極的に交流をすすめている。また、ホームの方が合唱の練習をして、地域の人に開放し、発表する等の取り組みに努めている。</p>

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の幸せをモットーに、当ホームの会長及び各職員は、基本理念を作成し、理解している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や職員は、基本理念を玄関や食堂に掲示し、理念に沿って、実際にサービスを実施している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	会長や管理者は、地域あつてのグループホームということで、自ら交流するために市町に出て行き、地元の人々の協力を得て、活動を実施している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年、外部評価を受けることで、自分たちでは気がつかない所を一つから改善できるように取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年から、町の運営推進会議が2か月に1回始まり、役員と顔なじみになり、いろいろと相談できるようになっており、サービス向上の一端となっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の中に、地域権利擁護制度を経て、後見制度を利用されている人がいるので、実際に関係者とかわり、その中で市町村とともに質の向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の家族等がホームによく訪問されているので、直接に報告したり、支払い等のコミュニケーションを取るようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また、事故報告書やヒヤリハットを用意している。家族からの意見を、直接相談される雰囲気があり、ホームの運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当時、職員の離職が続き、安定が困難な時期があったが、管理者や職員は、利用者に混乱を招かないよう努力し、今では安定している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会長や管理者は、研修受講や資格取得に理解がある。資格を持つことで、仕事に対する自信と質の向上につながるため、働きながらの職員育成に努力している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に積極的に出席して、同地域の同業者とのコミュニケーションを図り、横の連携に取り組んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	せかさず無理なく、自然に対応するように心がけている。職員の経験豊かな職種と年齢から、ゆったりとした受け応えと包容力があり、円滑に利用を開始できている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	小さな単位の家族として、職員も本人も、共に寄り添い支えあう関係づくりに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活暦が違うように、その環境も違うので、生活観や意向の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスを行い、家族や本人、職員、医療関係者と連携を持ち、チームで取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1か月ごとのモニタリング時に見直しをして、緊急時にはすぐ対応していく取り組みをしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームの共有スペースを他者との交流の場所にしたり、敷地の一部をイベントの際に、積極的に提供している。	○	すでに一部は実施しているが、多機能を活かした企画をし、地域の人たちの交流の場になれるよう取り組んで欲しい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>近くの市立病院との連携を取り、定期的に、また、緊急時に対応してもらえる関係づくりができています。</p>		
19	47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重症化した場合、ターミナル介護の経験がある。利用者、家族の希望や医療との連携で、最後をホームで看取ることを実施している。</p>		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>大切な個人情報について、常に、関係者は注意し、ファイルの取り扱いや事務所の戸棚に保管する等、徹底している。</p>		
21	52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日の過ごし方は、本人や職員で相談して決めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	前日か当日の朝に、食事内容を職員と利用者で決めている。また、下ごしらえの時に、一緒に手伝うことが日常的にある。	○	食事を楽しむ工夫は適切にできているが、食堂の壁面に、本日の献立を掲示してみる等、今以上の工夫に取り組んで欲しい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴できるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人の好きなこと、菜園づくり、散歩、外出の支援等を計画し、支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	見守りや一部介助で、時々、散歩、菜園作りを支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	常に、鍵をかけないオープンなケアをしているが、見守りは必要であり、事故のないように行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災時、事故発生時のマニュアル作成し、事務所の壁面に貼っている。また、定期的に消防訓練の実施に取り組んでいる。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事、水分摂取量の記録をして、一人ひとりの状況を把握し、健康の維持に努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには、適度に飾りつけがあり、すっきりとしている。また、臭いも一切なく、清潔な環境づくりに工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は飾りつけをしたり、タンスやいすを持ち込んだり、花をいっぱい育てる等、その人らしい個人の部屋となっている。		

※  は、重点項目。